



2020～21年度
国際ロータリー会長
ホルガー・クナーク

Weekly Report Niigata



2020～21 年度
新潟ロータリークラブ会長

高橋 秀松



ロータリーは機会の扉を開く

国際ロータリー

2020～21 年度テーマ

ロータリーは機会の扉を開く

新潟 RC 2月第 1 例会 (2021.2.2) (書面例会併催) No.3352

(1) 「君が代」

ロータリーソング「奉仕の理想」ピアノ演奏

(2) 高橋 秀松会長挨拶

今日はアサー・フレドリック・シェルドンについて、話をしたいと思います。彼はロータリーの第2標語「He profits most who serves best」最もよく奉仕するもの最もよく報いられる、そして「職業奉仕」を考案した人です。

調べていくうちに、職業奉仕の考えは日本の RC ではしつかり認知されていますが、アメリカをはじめとした海外では、あまり認識されていないようです。ましてやシェルドンという名前もあまり知られていないようです。そのうえであらためて説明します。

シェルドンは 1868 年ミシガン州バーノンで生まれました。ミシガン大学の経営学部で販売額を専攻し、そこで彼は 19 世紀における商売と 20 世紀における企業経営は全く違うことを学んだわけです。卒業後シカゴに出て出版社のセールスマンとなるわけですが、当時のシカゴは、実業に携わる者は、利益を追求するのに手段をえらばず、搾取や犯罪行為が横行して、商業道徳は地に墮ちた暗黒の時代でした。マフィヤ、アルカポネが暗躍したのもこの頃でした。不条理な利益より名誉を重んじたシェルドンは、雇い主の期待するセールスには納得せず、学校で学んだ学問と自らの経験を生かして、1902 年にシェルドン・ビジネススクールを設立し、経営学、特に販売額を教える道を選びました。

1908 年にシカゴロータリークラブに入会したシェルドンは、親睦と会員の相互扶助団体に過ぎなかった、ロータリーに、新しい経営学に基づく奉仕理念を提唱したわけです。

シェルドンの職業奉仕理論は、継続的な事業の発展を得るためには、自分の儲けを優先するのではなく、自分の職業を通じて社会に貢献する、という意図を持って事業を営む、すなわち会社経営を経営学の実践だととらえて、原理原則に基づいた企業経営をすべきだと考えました。さらに良好な労働環境を提供するのは、資本家の責務であると考え、資本家が利益を独占するのではなく、従業員や取引に関係する人たちと適正に再配分することが、継続的に利益を得る方法だと考えたわけです。現在ではごく当たり前の経営理論です。

シェルドンは事業家というよりは、経営学者 教育者だったようです。そしてシェルドンの頭の中には社会奉仕という考えはあまりなかったようです。

シェルドン・スクールは大盛況で、数多くの卒業生を輩出しました。

事実上、初期のロータリーで指導的役割を担っていたロータリアンのほとんどは、シェルドン・スクールの卒業生でした。RI の事務総長を長年務めたチェスレイ・ペリーも卒業生でした。親睦と相互扶助という姑息な手段で世渡りをしてきたロータリーに、大勢の卒業生を通じて経営学を学ばせ、実践させることによって、世界的な組織にまで発展させたのです。

ロータリークラブ連合会の組織の中にも Business Method Committee を作って自らその委員長を務めました。業種別の小委員会を頻りに開いて情報交換を行った記録が残っています。1910 年代の年次大会議事録には、毎回のように Business Method Committee からの報告事項が掲載されています。

そして、1911 年、オレゴン州ポートランドで開催された全米ロータリークラブ連合会の第二回ロータリー大会では「He profits most who serves best」がロータリーの標語として承認されました。これは、前年にシカゴで開かれた第一回ロータリー大会で、シェルドンが行った演説を基に作られた標語です。シェルドンはその演説の中で次のように語っています。「他者に対する正しい経営の科学のみが引き合うのだ。経営とは人間的な奉仕の科学である。仲間中最もよく奉仕する者が最も多く報いられる」この中には宗教的な要素は入っておりません。ポートランドでのロータリー大会は、もう一つの標語「超我の奉仕」が誕生するきっかけともなりました。

この大会で、現在の 2 大理念「He profits most who serves best」最もよく奉仕するもの、最も多く報われると「Service not self」の職業奉仕の原型が承認された、大会となりました。

その後ロータリーは職業奉仕から、団体的な社会奉仕活動が活発となって行きました。時代の流れの中で、1917 年にはアーチフランク会長によりロータリー基金(後のロータリー財団)が設立されました。また社会奉仕団体であるライオンズクラブが設立されたのもこの年でした。

1923年のセントレイス国際大会で決議23-34号が採択され、シェルドンとポールハリスとの意見の対立が目立ちます。1929年の国際大会では「He profits most who serves best」を廃止するという議案が提出されたりもしました。これは否決をされましたが、シェルドンは1930年62歳でロータリークラブを退会しています。1929年の世界恐慌後、ロータリーは会員の減少で苦難の30年代を迎えます。本日はアサー・フレドリック・シェルドンについて話をさせて頂きました。

(3) **米山奨学生**

チュウ シュン ジェイさん 奨学金贈呈

(4) **100%出席バッチの贈呈(久保田敦紀委員)**

宮嶋多佳子君 1年 鈴木 滋弥君 29年

(5) **誕生日お祝い贈呈(7名)**

(6) **結婚記念日お祝いの紹介(6名)**

(7) **委員会報告**

- ・秋山博一会計より半期決算報告
- ・細野義彦監査役より監査報告

(8) **各種ご寄付の発表**

米山奨学会寄付発表(徳永 昭輝委員)

宇尾野 隆君 徳永 昭輝君

青少年育成基金寄付発表(本多晃委員長)

本間 彊君 津久井勝之君

徳永 昭輝君 石橋 正利君

本多 晃君

(9) **ニコニコボックス紹介(酒井 昌彦委員)**

・久保田敦紀君 明後日2/4(木)から2/7(日)までドコモのオープンハウスが開催されるのでニコニコしています。毎年ビッグサイトで数万人を集める展示会を行っていましたが、今年はコロナのためWeb開催です。仮想の展示場で自分のアバターを操作して展示ブースを見て回る没入感のあるバーチャル展示会となっております。最先端を走るキーパーソン講演や、元NTT東の新潟支店長でこの新潟RCのメンバだったドコモの井伊社長も講演します。無料ですので、ぜひ、スマホで「ドコモオープンハウス」と検索して事前登録の上、お気軽にご参加頂ければ幸いです。ありがとうございました。

(10) **幹事報告(佐藤 邦栄)**

・右記理事会決定事項について説明した。

(11) **2月 2日の例会参加率**

会員数	算定対象者	出席者	参加率
89	86	56	65.12

2月2日 理事会報告 出席者10名

1 半期決算について(秋山会計)

当初予算消化しておらず、例年100万円の繰り越しが、400万円程度になる見込みである。差額の300万円について、今後どのような形で消化していくかを、会長と幹事でいくつかの案を出していただき再協議することとなった。

2 繰越金の取り扱いについて

上記1に関連し、再協議することとなった。

3 今後の例会の持ち方について

2月より、地元の外部講師をお呼びしたプログラムを再開することとなった。

4 退会届について = 承認

・新潟南病院副理事長 樋熊 紀雄君(12月末付)

・日本銀行新潟支店支店長 佐久田健司君(1月20日付)

5 入会推薦の件 = 承認

・日本銀行新潟支店支店長 東 義明君

6 3月以降の100%出席表彰について

書面例会開催により全員がバッチをもらうこととなるが、実出席率で判断して表彰を行うこととする。

7 4月18日の地区大会について

オンライン開催となるので、メンバーの皆様には全員登録をお願いすると共に、当日は、各自で参加となります。詳細については、内容確認次第お知らせいたします。

8 2月のプログラム=承認

2月 2日 第一例会につき卓話なし

2月 9日 会員スピーチ「国際奉仕について」
宇尾野 隆国際奉仕委員長

2月16日 卓話「新潟いのちの電話の活動について」
新潟いのちの電話理事 渋谷志保子氏

2月23日 祭日につき例会なし

9 その他

・ロータリー保育園から感謝状が届きました。

・前年度から書面例会を開催し、今年度も引き続き継続しているが、今年度中に一度はオンライン例会の開催をプログラム委員会と検討していく。

・他クラブで実施している会費の減免や返金について、様々なご意見がでており、改めて会長、幹事でいくつかの案をだしていただき、理事会で再協議することとする。

2月9日の例会予定

会員スピーチ「国際奉仕について」

宇尾野 隆国際奉仕委員長

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>